

# 潮騒

昭和10年2月愛知県の北端、富山村から耕地を求めて11名が分村移住した六連の富山地区は、当時、不毛の原野だった。また、豊川用水が通水するまでの表浜一带には、利水できるような河川・ため池も少なく、「水が欲しい」が合言葉になっていた。

入植した富山の人々は指導者のもとで、手はかかるが芋や麦より高く売れるスイカの栽培を始めたが、作物は水が無ければ育たない。

そこで、井戸を掘ってはみるものの80メートル掘っても水は出なかった。次第に水をめぐる争いがおこるようになり、一時は故郷富山に帰ろうということになる。

最終的には、近く集落に住む人々の協力が得られ、水を確保することが出来た。そして、今や六連はスイカの名産地となった。

これは、六連小学校の学芸会で、4年生が全員で演じる劇「荒地に水を」のあらすじである。

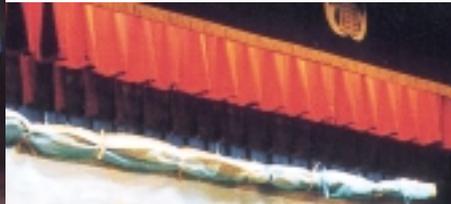


写真 / 田原町立六連小学校「荒地に水を」

## CONTENTS

### 目次

- 1P... 特集「表浜の農地」豊川用水・農地整備など
- 5P... 表浜むかし話「水の乏しかった頃」
- 6P... 協議会の活動報告
- 7P... 表浜写真館 平成12年度事業計画



# 表浜の農地

日本有数のかんがい施設・農地整備を成し遂げた先人達の偉業を振り返り、こうして築かれた農業基盤を次の時代に向けてどうすべきかを考えなければならない時が来ています。

## 貧農からの飛躍

太平洋に突き出した渥美半島の特に表浜(遠州灘沿岸)側は、その地形・地質から極度に水が不足し、強酸性の痩せ地にイモ類や麦を栽培し、加えて養蚕、漁業などでようやく生計を維持する貧しい農村地域であった。

昭和43年念願の豊川用水通水により、永い間苦しめられてきた水問題が解消された渥美半島は、豊川用水受入のために昭和37年頃から地域一丸で取り組んだ農地基盤整備と、温暖な自然条件、市場へのアクセスの良さ、日本の経済成長・所得水準の向上による消費動向の変化に適合した農産品の生産等が相まって、露地野菜、施設園芸、果樹、畜産を主とする全国有数の生産地へと変貌を遂げた。



藁で牛の飼葉を作る農家風景(写真提供:富田勇)

## 豊川用水事業



豊川用水サイフォン工事(大草周辺)

昭和36年頃から太平洋岸の高台を、アメリカ製大型土木機械が海鳴りの如き唸りをあげて水路を掘削し、大型ダンプが忙しく行き交う姿が遠くから望まれた。この様にして用水路、管理用道路が完成し、低地は車が走れるほど大きなサイフォン(管)が下流へと延びて行った。

豊川用水は、大正10年頃赤羽根町出身の近藤寿市郎によって提唱されたと言われ、昭和2年農林省の大規模農業利水調査で初めて取り上げられたが、戦争の拡大とともに計画は一旦消滅した。

折しも、第二次世界大戦後の食糧増産と失業救済のために、各地で未墾地開墾と水利拡大が進められる中、農林省は昭和24年宇連ダムの築造に着手した。

その後、当地域が国土総合開発法に基づく「天竜東三河特定地域」に指定され、豊川用水計画は改訂を重ね、また、水源確保では、愛知県・長野県・静岡県等で協議を重ね、愛知県を流れる天竜川支流の振草川と大入川からの導水に加え、天竜川本流に造られた佐久間湖から分水を得ることとなった。

こうして、幹線水路112km、支線水路550km、受益面積約2万ha、農業用水のほか上水道・工業用水を供給する総合開発事業として昭和24年の着工以来、19年の歳月と約488億円の巨費を投じて昭和43年5月に完成・全面通水を見るに至った。

豊川用水は、特に畑地かんがいの点で特徴的な成功を収め、また、都市用水・工業用水の供給面で東三河の発展に欠くことのできない役割を果たした。



# 豊川用水の受入のための農地基盤整備

昭和37年作成の地形図

豊川用水幹線工事と並行し、田原町内でも支線水路工事が着手された。知多半島で行われた愛知用水を参考に、幹線と末端設備を同時に完成させるために畑地かんがいを含めたほ場整備が必要だった。

このほ場整備では、太平洋岸の六連、東部、神戸、大草、汐川右岸以東を第1土地改良区、加治、大久保、野田、芦村、仁崎及び大字田原の清谷川右岸までを第2土地改良区、清谷川左岸の大字田原、童浦一帯を第3土地改良区とし、それぞれ事業を開始した。

比較的経営規模の大きな畑作農業に特徴があった第1土地改良区の区域では、土地の実体把握や受益地加入への抵抗もあったが、昭和37年の志田原開墾を皮切りに、太平洋岸一帯の畑地で大規模ほ場整備が一斉着手され、昭和41年にほぼ完了した。



【整理前】大草地区

**田原町第1土地改良区**

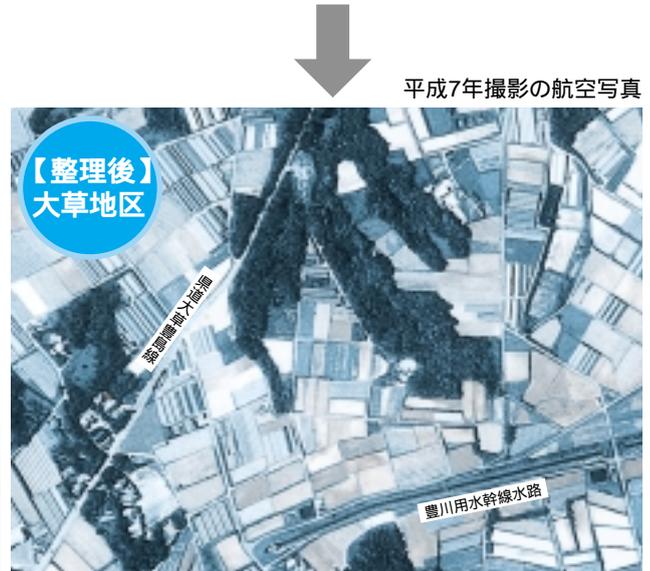
組合員数1,289人、地区地籍1,412ha  
 昭和37年度志田原(大草)から事業開始  
 ほ場整備事業(昭和38~40年度、延べ626.4ha、154,785千円)  
 農用地造成事業(昭和37~40年度、延べ565.98ha、146,625千円)

## 農業基盤整備の先進地

日本有数の大規模かんがい施設として、毎年、世界各国からの農業研修生が田原町を訪れています。



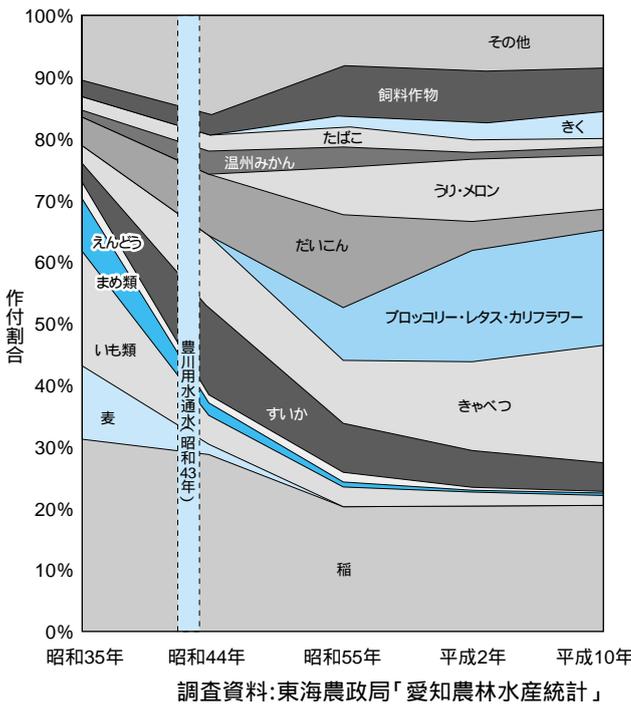
富山地区開墾碑前で記念写真を撮る国際協力事業団研修生



【整理後】大草地区

平成7年撮影の航空写真

## 田原町の農作物作付面積の推移



## 営農の変化



畑地かんがいにより、各畑に埋め込まれた立ち上がりのハンドルを回すだけで、瞬時に豊川用水からの水が噴き出すようになった。

水が確保されたことにより、栽培作物は需要に応じた収益性の高い物へと変化し、昭和30年代主流だったサツマイモ、麦、落花生から、キャベツ・ブロッコリー・スイカなどの露地野菜、菊・メロンなどの施設園芸作物へと移行し、今やその主要産地となっている。

**農業粗生産高の全国ランキング(H10年)**

👑1位...豊橋市    👑2位...渥美町    👑14位...田原町  
 46位...赤羽根町

**田原町の全国ランキング上位作物(H10年)**

ブロッコリー...1位	きく...5位	キャベツ...8位
トマト...11位	露地メロン...24位	すいか...31位
温室メロン...29位	レタス...37位	

# 地域の将来に向けて

農産物市場の国際化が進展し、我が国の食糧自給率は遂に40%を割込む中で、国内有数の農業地帯であるこの地域においても、耕作放棄などによる農地荒廃、農業の環境対策、高齢化・後継者問題など多くの課題を抱えています。今後、この地域が恵まれた各種条件を生かした農業を展開するために何が必要かを、4名の方々に伺いました。



## 西山 作 (63歳・六連字一本木) 露地野菜



露地野菜は規模拡大、施設園芸は技術の高度化により儲かる農業を実現し、後継者が好んで就農する環境を整える必要がある。また、露地でも施設でも農地を集積し効率化を図るとともに、作物に適した土壌改良を行って、生産コストを低下させなければならぬと思う。

## 富田 信也 (48歳・大草字辻) 露地野菜



産地として生き残るために、農家個々で出来ることには限界があり、非農家も含めた農地と集落の総合的整備を行い、生産効率の向上を図らなければならない。また、農業だけではなく、居住・生活の場としても魅力ある地域づくりをしなければ、後継者は育たないと思う。

## 田中 信之 (47歳・谷熊字太神) 施設園芸



施設園芸でも農地集約による効率化を図り、気候・水供給・流通体制での優位性に加え、産地競争力を向上させなければならない。土地を守って行くだけの農業では、後継者にとって魅力がない。利益を出せるように、農地基盤の再整備が必要だと思う。

## 山本 和宏 (40歳・南神戸字本郷) 露地野菜・たばこ



六連から大草にかけて大規模な基盤整備が必要と思うが、まずは5ha程度のほ場整備からモデル的に実施し始める必要がある。やる気のある農家が生き残れるような優良農地を、次の世代に引き継ぐために基盤を整えるのが今農業に携わる我々の役割だと思う。

## 農村・農地再生プラン

(平成10年10月策定の農地エリア整備の地元検討書)

協議会に農地整備専門部会を設け、現状を把握した上で、地域発展に必要な整備の地元案を作成しました(検討期間:H9.11~H10.10)。

この報告書は各校区公民館にあります。

### 農地エリアの現況・課題の把握及び整理

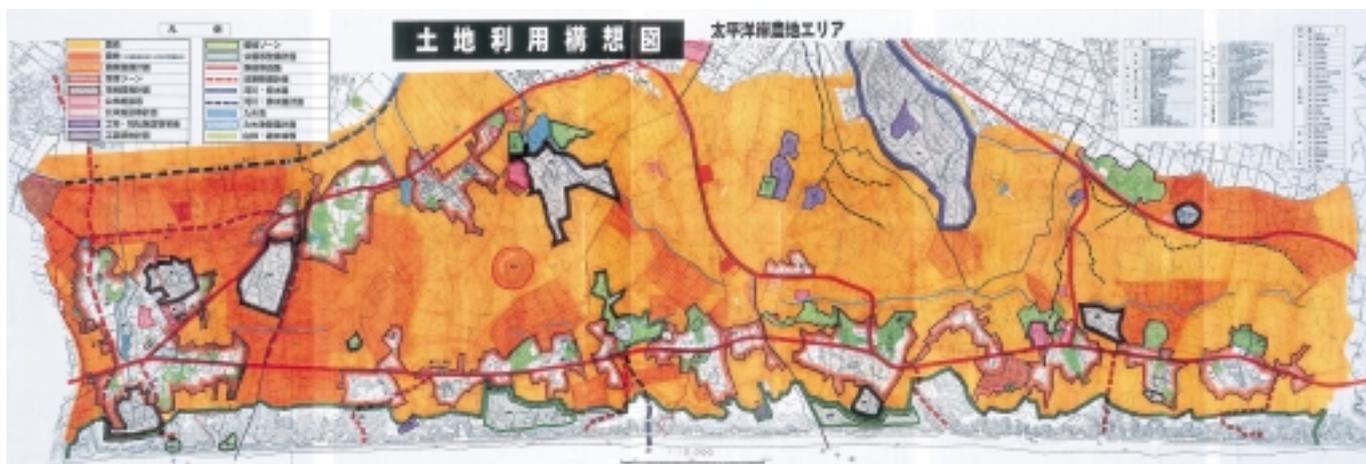
- ・アンケート調査、現況マップ作成

### 農地エリアの土地利用構想の作成

- ・問題改善のための提案、事業計画立案、土地利用構想図作成

### 実現に向けての課題整理

- ・町等施策との調整、地域・関係者の合意形成、事業化のための方策・準備



# 農地基盤を支える大型プロジェクト

## 大島ダム( 豊川総合( 用水事業 )

( 水資源開発公団 )

豊川水系唯一の宇連ダム( 貯水量2842万トン )を補完し、東三河の慢性的な水不足に歯止めをかけるため、昭和63年に農林水産省東海農政局が鳳来町の宇連川支流大島川に大島ダム建設計画を発表。

平成3年鳳来町と建設合意、平成5年水没世帯補償交渉が成立し、平成7年5月から貯水量1130万トンの重力式コンクリートダムの本体工事が始まった。

平成11年度で本体工事がほぼ完了し、平成12年10月から試験湛水、平成14年度から本格利用が開始される。



大島ダム( H12.9撮影 )

## 豊川用水二期事業( 水資源開発公団 )

豊川用水施設は全面通水開始以来30余年を経過し、漏水・破損事故が頻繁におこり、適切な水配分や安全性を維持することが難しくなっている。

このため、平成11年度から平成20年度までの予定で水路施設の改築、幹線水路の複線化等の工事を行っている。

## 設楽ダム計画( 建設省 )

建設省が北設楽郡設楽町の豊川に計画している治水・利水の多目的ダムで、貯水量1億トンで建設に向けての調査が進められている。

# この地域に関わる国家プロジェクト

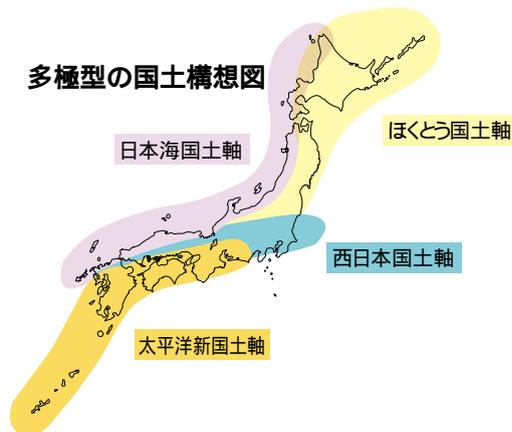
## 伊勢湾口道路( 建設省 )

伊勢湾口道路は、静岡県西遠地域から渥美半島を縦貫し、伊勢湾口部を横断して、三重県の志摩半島に至る延長約90kmの海峡横断道路プロジェクトの構想で、平成6年には地域高規格道路の候補路線「三遠伊勢連絡道路」として指定され、平成10年の新・全国総合開発計画においても調査を進めることが明記された。

また、多軸型の国土構造の実現を目指し、沖縄から九州、四国、紀伊半島を経て伊勢湾沿岸に至る地域に構想されている「太平洋新国土軸」の一翼を担う道路である。

建設省は、昭和60年度から伊勢湾環状道路の一環として基礎調査に着手し、平成6年度からは、新たな交流圏の形成による地域の活性化、振興を図る海峡横断プロジェクトとして調査を継続している。

## 多極型の国土構想図





表浜むかし話

# 「水の乏しかった頃」

山田もと

遠く北設楽・南設楽の山々から長い水路を流れてくる豊川用水ができる前、渥美半島の先端から浜名湖辺りまでの片浜十三里といわれる遠州灘沿岸の地域は、赤土のほうべ(崖)の上であって、どこも水の少ない所でした。

中でも、真ん中辺にある大草、本前、水川、東ヶ谷、六連などはなおのことでした。

それでも字々には人が住み、人が住めば木も育ち、畑も耕され、麦と甘藷と食べるだけのものを少しずつ作り、蚕も飼うという忙しい生活がありました。

唯一売れる農作物の豌豆が、山あいの畑になり始めると大忙しで、学校から帰る子供を待ちかねて豌豆摘みをしたものです。

せわし、たのもし紅色だすき  
きょうも日暮れて、畑の中  
豌豆つみゃんせ、急いでつみゃれ  
浜は鳴る鳴る、浜は鳴る鳴る  
東風が吹く、ヤレサ、ヨイヤサ



なんて歌を作った小学校の先生もいました。どんな仕事にも、子供も一緒になって働きました。

水の乏しい暮らしは、作物を育てるにも生活をするにも大変なんぎなことでした。

地形や地質のためか井戸のある家はめずらしく、その代わりどこの家にも、軒場に大きな穴を掘ってセメントを塗ったたたきがあり、屋根に降る雨水を貯めて、飲み水にも風呂水にも使っていました。樋を伝ってくる水を貯めるので樋がめともいいました。

樋がめに貯めた水も、真夏の日照りや冬の水枯れ時には無くなってしまいます。

「樋がめが空になったで、今日は風呂水を汲んどけよ。」

「うえっ、はいなくなったのかん。」

「この日照りじゃなあ、たあんと汲んどけよ。」

「はや雨降らんかなあ。」

何しろ忙しい大人達は、遠くにある田の草取りや蚕の桑摘みに行ってしまう。水汲みは子供達の仕事です。

浜から数十メートルも高いほうべには木々が茂り、浜へ通う曲りくねった細道の森の中に、一つだけ井戸がありました。大草の半身字の子供達は、海から百メートルも離れていないのに澄んだ水がこんこんと湧き出すこの井戸まで水汲みに来ました。

さしあいといって、大きい子が後ろで、小さな子が前で、棒の真ん中に桶を吊るし、急な坂をいなし上げるのです。一人で汲む子は、手桶に少し入れて何回でも家まで運ばなければなりません。だから風呂は小湯で、二度沸かし三度沸かしも珍しくなかったんです。

何時の頃だったか、この森の中におよしという人が住み着いていました。体が大きく、男か女が判らないほど顔は日に焼け、髪はぼさぼさ、話も笑いもしませんでした。足が悪くて、外またにひょっくり、ひょっくり歩いて、ほうべの森へ帰って行く姿をよく見かけました。

近くの人達は、黙って野菜を置いてきたり、井戸で会うと水を汲んであげたりしました。浜に近いせいか、言葉は荒っぽくて怒られているのかとびっくりしますが、根は人が良く、およしも安心して暮らしていました。

戦後になって、この井戸谷の井戸を水源として半身字に簡易水道ができました。ガチャーン、ガチャーンと自動ポンプの音がするだけで子供達の声も聞こえなくなり、いつの間にかおよしの姿も見かけなくなりました。

いよいよ、豊川用水がほうべの高みを通水すると、赤土の小松原は真平にされ広い畑が沢山できました。人をばかして話題になった狐や狸の住む一本木の大きな女松も切り倒され、やれ、鯖を取られたたのと人々の口を賑わすこともなくなりました。

豊富な水のお陰で、暮らしかたは大きく変わり、広い畑では、キャベツ、ブロッコリー、西瓜、メロン等々、沢山の野菜が出荷されるようになり、人々の生活はとても豊かになりました。

# 「みんなで考え・行動する地域づくり」が 田原町太平洋岸総合整備促進協議会の活動姿勢です。

この地域も、昔とは違い様々な職業の方々々が暮らしています。  
しかし、その殆どが農業振興地域の農用地に指定されていることから、今も農業・農地の在り方を抜きにして、この地域の整備は考えられないという点では変わりありません。

少子・高齢化や、多様化するライフスタイルの中で、地域資源を活用した発展を成し遂げるためには、土地利用の共通する神戸・大草・六連・東部校区の住民が主体となり、共に考え、行動することがその実現の近道ではないでしょうか。

田原町太平洋岸総合整備促進協議会

会長 小笠原 泉

## 協議会活動の経過

H8.1	協議会発足
H8.3	沿岸部に関する地元要望作成
H9.3	基本構想「サングリーン21」策定
	方向性 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境の保全と活用</li> <li>・農業基盤、農村環境の整備</li> <li>・観光・レクリエーション施設の整備</li> <li>・幹線道路の整備</li> </ul>
	展 開 <ul style="list-style-type: none"> <li>・太平洋岸の魅力を発信するイベントの開催</li> <li>・海浜・崖森・農地エリアのエリア別の整備促進</li> <li>・渥美半島全体の連絡調整</li> <li>・関係機関への要望運動等の展開</li> </ul>
H9.11	専門部会設置
H10.3	海浜・崖森エリアの基本計画策定
H10.10	農地エリア整備の地元検討書作成
H10.11	第1回表浜自然ふれあいフェスティバル開催
H11.10	第2回表浜自然ふれあいフェスティバル開催

## 協議会組織(平成12年7月現在)

役員	会 長	小笠原泉(東部校区総代)
	副 会 長	河合孝治(六連校区総代)、渥美博孝(神戸校区総代)、竹内秀夫(大草校区総代)
委員	町議会議員	大羽敏、河辺正男、彦坂雄三、富田秀穂、多田辰郎、伊与田知養、川口治吉
	漁業関係者	富田正和(神戸漁業協同組合組合長)、西山初雄(六連漁業協同組合組合長)、広中一盛(神戸漁業協同組合)
	町農業委員	福井義信、鈴木敏夫、西山作、安田和司
	役場関係者	川口保夫(助役)、鈴木啓之(教育長)、河辺光明(経済部長)、鶴飼正彦(建設部長) 光浦貞住(都市整備部長)
顧問		白井孝市(田原町長)、鈴木愿(愛知県議会議員)、岡本勝(田原町農業協同組合代表理事組合長)
事務局		田原町役場総務部(企画室) 菟田稀一(総務部長)

## 表浜自然ふれあいガーデン 実現に向けての動き

(平成10年3月策定の海浜・崖森エリアの基本計画)

多額な費用を要する海岸保全事業の継続的实施には、国土保全・防災面に加えて、表浜海岸の持つ多面的価値の創造を行い、投資効果の向上を図る必要があります。

### ハード事業

海岸整備(県事業)

海岸保全事業:東神戸海岸 海岸治山事業:南神戸・東神戸・六連海岸  
拠点地区の整備促進(町事業)

海岸公衆便所建設:谷ノ口海岸(H9)、大草海岸(H10)、百々海岸(H11)

海岸駐車場整備:大草海岸(H11)、百々海岸(H12)

海岸進入道路整備:大草海岸(H11~)

### ソフト事業

表浜自然ふれあいフェスティバル(協議会事業)

メイン会場:H10谷ノ口海岸、H11大草海岸、H12百々海岸



町教育委員会主催の健康ウォーキング大会(H10神戸海岸)

## 農地エリアの整備 実現に向けての動き

道路・排水・農地区画・ため池などの農業基盤に加え、集落環境を含めた総合的な整備促進を図る必要があります。

### ソフト事業

農地基盤に関する実地調査(町事業) 農村基盤再整備に関する調査:表浜地域全域(H11)

### ハード事業

農村・農地の整備(町事業) 農村総合整備事業:神戸地区(H11~)



写真提供:須ヶ原光弘

## 表浜写真館

Omotehama Photo Gallery

## 越水池のホテイアオイ

ホテイアオイ *Eichhornia crassipes*

世界の暖地に雑草として生育する南アメリカの原産の水草(ミズアオイ科)で、長い根をおろし、また枝を横にだしてふえる多年草。この写真は平成10年10月、神戸の越水池に繁殖したホテイアオイが一斉にうすむらさき色の花を咲かせたようすです。



### 平成12年度事業計画

#### 主催事業

#### 第3回表浜自然ふれあいフェスティバル

- 日時** 平成12年10月28日(土) 午前9時~午後1時頃  
悪天候の場合は11月19日(日)に延期
- 場所** 表浜一帯(メイン会場は百々海岸)
- 内容** 清掃活動、地引網、太鼓演奏ほか
- 目的** 表浜の良さ、浸食等の現状を広く知らしめ海岸整備の促進を図る。

#### 推進事業

- ・海岸保全施設の整備:愛知県土木部
- ・海岸治山事業:愛知県東三河事務所
- ・海岸駐車場の整備(百々海岸):田原町経済部商工課
- ・海岸進入道路の整備(大草海岸):田原町建設部土木課
- ・農村総合整備事業(神戸地区):田原町経済部農政課

### 第2回表浜自然ふれあいフェスティバル

昨年開催



平成11年10月23日(土) 午前9時半から表浜海岸全域でごみを拾ったあと、大漁旗と横断幕が飾り付けられた大草海岸に約800人が集合し、地引網、石焼イモ、潮騒鍋、太鼓演奏が行われました。

